

안녕! INTERVIEW

안녕! 인터뷰



avex (株) 洋楽事業部国際部長

矢島 志敏

globeや安室奈美恵、浜崎あゆみなどメガヒットを飛ばすアーティストを世に放ってきたavexが、昨年からコリアンミュージックを手がけ日本でのK-POPブームの火付け役を買ってでた。その真意をたずねた。

なぜ、K-POPを日本で売出すそうと考えたのですか？

われわれエイベックスの音楽は、台湾、香港ですでに認知されていて、近年その他のアジアの国でも

日本のアーティストの楽曲が紹介されてきました。特に台湾では、弊社のアーティストは大変人気を博しており、アーティストと音楽の交流も進んでいます。ところが同じアジアの文化圏の中では、残念ながら日本の音楽が韓国に行き、

韓国の音楽が日本に来るという部分はまだ非常に少ないという現状認識をもっていました。でも何かきっかけがあればもっと活発になつていいのではないかと思つていたのでです。

そんな時にちょうど、ワールドカップも決まって、日韓関係にある流れを止めている状況がこれから劇的に変わっていくのではないかと思ひ出したのです。そのタイミングで、韓国のエスエムエンターテインメントというレコード会

社から、これから韓国と日本で何かやっていくのなら是非うちとやりませんか、という誘いをいただきました。そこで韓国の他のレコード会社の状況も調べてみたのですが、我々が一緒にやっていくパートナーとしては、エスエムエンターテインメントさんが一番当社

のカラーにあっているのではないかと感じました。お互いに近いカラーを持っていると思つたのです。エイベックスは非常に若い会社で、どの企業系列にも属さない独立

流れるべき川が流れていなかったが、その川を一緒に流す相手が見つかった。

思いました。しかも両社とも短期間に急成長した会社で、勢いも持っていますし、ダンス系の音楽に強いという共通点もあります。

エスエムさんのアーティストの音楽を聞かせてもらいましたが、非常に音楽のクオリティが高く、更に新鮮でした。音楽の質が高く、新鮮なオリジナリティにあふれ、会社に活気があり、更に会社のカラーも近いとなれば一緒にやってくには非常にいいじゃないかというところで、本格的に契約の話を始めからあつたという間に合意に至り、去年十一月に相互ライセンス契約に調印をしました。

それから日本でのリリースの準備を始め、今年の六月に、K-POPの最初のCDをリリースしまし



た。端的にいいいますと流れるべき川が流れていなかったが、その川を一緒に流す相手が見つかったということ。

タイミングが合ったってことですね。やはりワールドカップは大きいですね。

そうですね。ワールドカップは追い風になっていきます。

あともうひとつはB.O.Aという特異な才能をもったアーティストとの出会いも我々にとっては非常に大きなことでしたね。

韓国では一枚アルバムをリリースして、その後本人の希望もありまして日本でデビューしました。韓国でのデビュー前から彼女の歌を聞いていましたが、歌もダンスもものすごくレベルが高いのですよ、まだ十三歳なのに。十三歳

であのレベルの子はちょっと見当たらなれないと思いました。この子が日本語を話せるのなら、日本でデビューさせたらおもしろいだろうなと思ってたのですよ。そしたら出来たのです。本人も韓国と日本

両方で一流のアーティストになりたかったので、日本語を勉強して

エスエムさんもこの子は日本でもやらせてみたいって思っていたので、話ほとんどん拍子に進みま

した。実際に彼女が日本にきて活動を始めたのは今年の四月なのですが、私がはじめて彼女に会って

から日本デビューが実現するまでなんと一年かかってないんですよ。この短期間にこれだけ劇的に

大きな進展がみられたのは、彼女が持っていたインパクトがそれほど大きかったからだと思います。我々に確信を与えてくれたのです。

彼女はとても楽しみな存在です。もちろんミリオンセラーアーティストになって欲しいのですが、若いですからじっくりいっても全然問題ないですね。とにかく実力を

持っているのです。

今後どんな韓国アーティストを紹介していくのですか？

B.O.Aのほかにも素晴らしいアーティストが大勢いるのでいろいろな検討が進んでいます。残念ながら具体的にはまだ名前はありません。J-POPであればK-POPであれエスエムさんとお話して一緒にやっていきたい

ですね。

やはりダンスミュージック系になりますか？

いえ特にジャンルはこだわっていません。若くて、才能があり、基礎がしっかりしていて、その日本人の魅力が感じられたら、ジャンルのには問いません。こうじゃなければならぬという既成概念はあんまり作らないでその素材にあった形で新しい展開をしていければ、と思つています。

CDとして前回「K-POP100%」という赤いジャケットのいるんなアーティストの曲が入ったものを出されましたよね。十一月にも次のアルバムがでるとお聞きしていますが？

はい、十一月のは「SM TOWN」というクリスマスソング特集ですね。そして年を越えて来年の春にはまた「K-POP100%」の2が出ます。また、「これまで神話」H.O.T.、S.E.S.、「V.I.T.H.E.S」などの殆どのアルバムを既に日本でもリリースしましたし、H.O.T.のリーダー KANGTAの新作ソロアルバム「Polaris」も発売しました。他にも韓国で出されたCDをどんどん日本でリリースし

PROFILE

年譜
 1982年3月 明治大学経営学部経営学科卒業
 1982年から1990年 山水電気株式会社海外営業本部
 1990年から1996年 ゲーム業界のアメリカ現地法人、Natsume Inc. とData East USA Incそれぞれのアメリカ現地法人の社長、副社長を歴任
 1997年から1999年 株式会社コーエーで海外営業と欧州事業開発を統括
 1999年8月から2000年3月 エイベックス株式会社にネットワーク事業の立ち上げ、分社化を担当(2000年4月より子会社として分社化され、エイベックス本体に残る)
 2000年4月 ヴェルファーレ事業を担当
 2000年5月 洋楽部部長室のアジア事業推進統括を兼務
 2001年4月 洋楽部部長室アジア事業推進が国際部に発展し統括、ヴェルファーレ事業を兼務



モノの交流は物でしかないが、音楽の交流は文化の交流であり、心の交流になる。

「それなんです。私もですね、去年何年かぶりに韓国に行って現地にいる銀行の方と話をしている、こんな話をしたんです。『日本の車が街中を走っているのですね。十二・三年前はそんなことはありませんでした。』と私が言っていると、銀行の方から、『日本の車』」

「車が走ることも、エイベックスのような日本の大手音楽業界の方がこつとしてここに来て、おっしゃってくださったんです。つまりモノの交流は物でしかないが、音楽の交流は文化の交流であり、心の交流になる。それが始まるうとして、両国にとつて大きな意味がある、と言っている、評価して頂きました。同時に我々が掛け橋として背負わなければならぬ期待も責任も実感し、頑張らなければと思えました。日本の文化解放も止まったまま」

「まにまにありますが、それ以前に日本にはまだ、そんなにK・POPが入って来ていないのが現状ですね。韓国に入っているくらい日本にも韓国音楽が入って来て欲しいですね。」

「本にあるいろいろな音楽の一つとして身近にあって欲しい。政治的な方では民間交流より難しいことがある、我々民間の方から交流をすすめていって、近くて遠い国から、近くて親しい、友だちの国にしたいなと思います。十年前に日本で売られていたキムチはおいしくなりましたけど、今は韓国産の美味しいキムチが簡単に手に入る。焼肉もそう。もちろん韓国の食文化は深いので、日本でも知られているのはごく一部ですが、それでも韓国の食文化が今日本では手軽に本物の味が食べられるようになってきましたよね。そういった意味では、キムチと同じレベルで韓国音楽も日本に広げていって定着させていきたいです。」

インタビュー・写真：姜芸真

「はい。これまでの日本人の音楽を聴く習慣は、日本語の音楽を聞くか、英語の音楽を聞くというスタイルでした。だから欧米の英語曲に関しては、CDショップにおいても洋楽棚として展示スペースがあるのですが、アジアの曲は展示スペースがありません。お店に作ってもらったと、日本語でも無く、英語でもない曲でも、いいものはいい、と自然に受け入れ、聴く習慣を作っていくのが今の段階だと思っています。」



「そうですね。台湾をみると、あのマーケットには私は感心するのです。台湾には自分たちの言葉、マンダリンの音楽があつて、英語の曲ももちろん聴かれ、日本の曲も好んで聴かれ、K・POPも好まれています。いいものはいい、と偏」

「行って」と思っています。K・POPの日本進出ですね。でもまだどこのCDショップでもK・POPのCDを見かけないというほどではないですね。」

「今までの日本というのは、欧米主義であまりにアジアに目を向けてこなかったように思います。やはりアジアの中で力のある日本がアジアをもっと引っ張ってほしいですね。そういう意味ではエイベックスさんが韓国音楽を手がけるといふのは重要なことだと思っています。」

「日本より国際化が進んでいるっていうことでしょうか？」

「韓国は、韓国の優れた食文化は、全てではないものの、十分に日本に伝わっていて認知されています。音楽はそこまで伝わっていません。音楽において、いいものももっと幅広く広がっていいのではないかと、思います。今一番気になる音楽で、日本にきちんと伝わっていないのがK・POPであり、その認知を浸透させたい。それが実現すれば、その先は台湾やインドの音楽かもしれない。」

「ではエイベックスとしては、今後K・POPに力を入れていこうというお考えですか？」

「そうですね。日本もそうやっていかなければならないって思っています。いいものは自然に受け入れるのが一番ですね。」

「なんで認知されていないのでしょうか？」

「両国の関係だと思えますね。こんなに近い国なのに文化交流というところでは、なかなか近くなれなかったですね。たぶんそれが唯一の原因だと思つては、残念ながら過去のいろいろな部分に於いては我々では変えられないのですが、現在なり未来は我々の力で少しずつ変えていけると思っています。我々の手で少しずつでも両国の距離を近づければ、あるいは、少なくともそのお手伝い」

現在なり未来は我々の力で、少しずつ変えていけると思っています。

読者プレゼント!
 H.O.Tのcantataがソロで出した「Polaris」と11月末に発売された「SM TOWN」をそれぞれ1枚ずつプレゼント! アンケートハガキに記入の上応募してね。